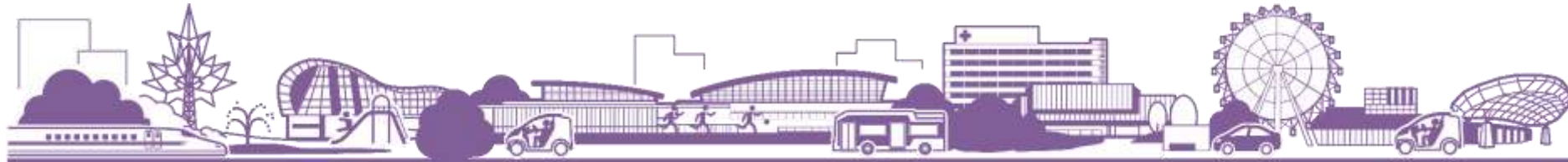


【資料1】



刈谷市スマートシティ構想



目次

01 構想策定の背景／趣旨	[P3]
02 構想の位置付け	[P4]
03 取組方針／基本理念／基本原則	[P5]
04 刈谷市の現状と特性	[P6]
05 刈谷市のスマートシティのテーマ	[P7]
06 取組イメージ	[P8]
07 推進体制／エコシステム	[P9]
08 推進ロードマップ	[P10]
参考 用語解説	[P11]



構想策定の背景

我が国全体で、人口減少、気候変動、インフラ老朽化など対応しなければならない課題が複雑化・多様化していることから、分野横断的に課題を解決し、地域の持続性を高めていくことが必要になっている。

そこで、ICT等の先端技術を活用しつつ、マネジメントを高度化することで都市や地域の抱える諸課題の解決を行い、また、新たな価値を創出し続ける、持続可能な都市や地域づくりを行うスマートシティを推進することが求められている。

一方、本市では、自動車産業を中心に産業が発展し、健全な財政基盤を築いてきたが、EVへの転換を始めとした自動車産業の100年に一度の大転換により、産業構造が変化する可能性がある。また、将来に向けては人口減少等による影響も大きくなることが予測される。複雑化・多様化する課題や産業構造転換に対応し、人口減少等の変化に備え、未来へ持続可能なまちとするため、本市においてスマートシティの推進が必要不可欠である。

構想策定の趣旨

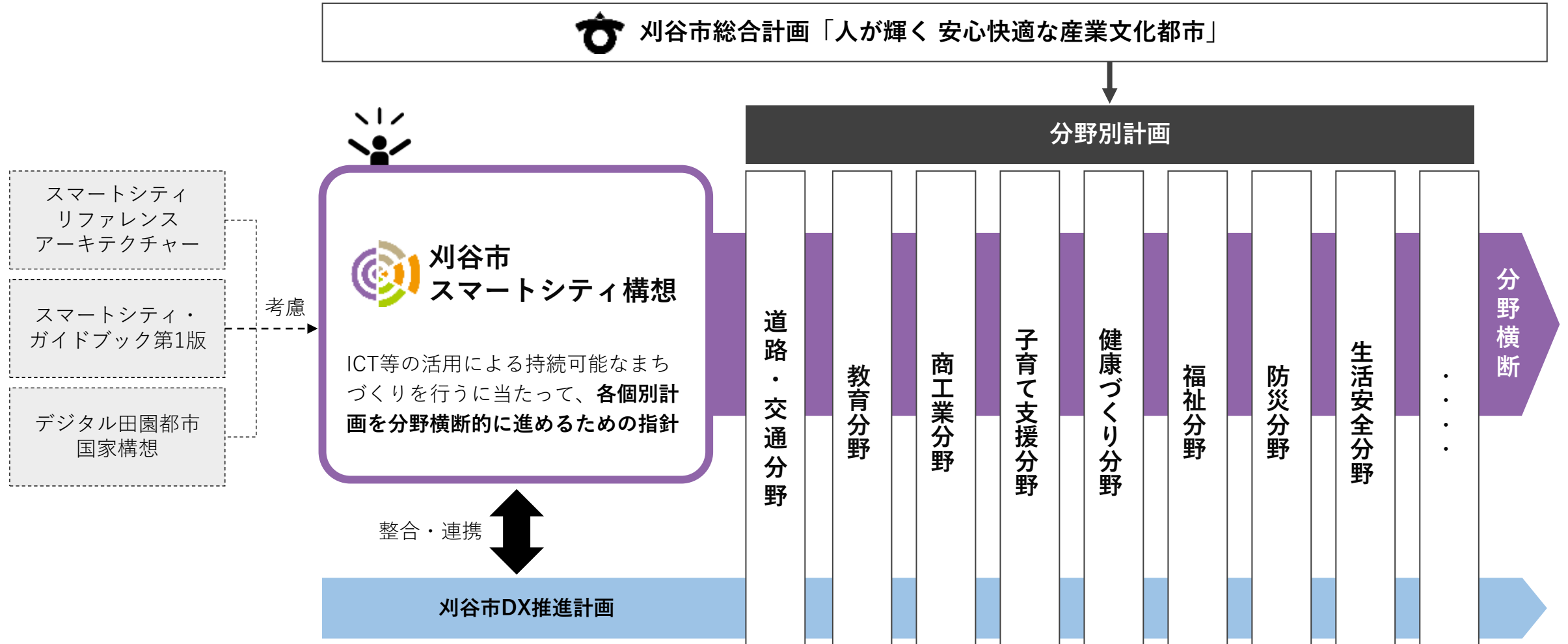
本市は、自動車産業を中心とした優良企業が多数立地していることから、民間企業の力をいかし、地域づくりを推進していくことが有用である。

そこで、2021年7月に愛知県と共同で「刈谷スマートシティ研究会」を立ち上げ、参画いただいた企業等と共に、実証実験プロジェクト等のアイデア出しを行い、スマートシティ推進に向けた礎を築いた。

研究会の活動を踏まえつつ、今後、官民で更なる連携を図り、未来を見据えて本市の課題解決や市民生活の向上につながるスマートシティを推進するに当たって、基本的な考え方と指針を示すため、構想を策定する。

02 | 構想の位置付け

スマートシティは、複合的な課題への対応等を図るため、分野を超えて進めていくことが重要である。刈谷市スマートシティ構想は、総合計画における将来都市像「人が輝く 安心快適な産業文化都市」の実現に向けて、分野横断的にスマートシティの取組を進める指針として位置付ける。




03 | 取組方針／基本理念／基本原則


本市のスマートシティは、**新技術ありきではなく課題解決につながる実効的な取組を産学官連携で共に行い、安心・快適を市民が実感できるもの**とするため、以下の取組方針、基本理念、基本原則に則り推進する。


取組方針

 **安心・快適を実感できるまちを共創する** 


基本理念


 **課題解決を最優先**
新技術ありきではなく、既往の技術であっても活用可能なものは取り入れ、本市の課題を実効的に解決可能な取組を着実に行う


 **分野間連携・産学官連携**
複合的な課題への対応等を図るため、分野を超えて産学官連携を進めていく


 **市民が実感できる**
実証のための実証で終わるのではなく、市民がテクノロジーの恩恵を実感できる社会実装につながる取組に注力する


基本原則

 **公平性・包摂性の原則**
市民が等しくサービスを楽しみ、あらゆる主体が参画可能なスマートシティの実現

 **プライバシーの確保**
パーソナルデータの利活用を進めるにあたり、市民のプライバシーの確保を徹底

 **運営面、資金面での持続可能性の確保**
地域に根差した持続的なスマートシティの実現に向けて、運営面、資金面での持続可能性を確保

 **相互運用性・オープン性・透明性の確保**
相互運用が可能なシステム、オープンなデータ流通環境、意思決定プロセス等における透明性を確保

 **データに基づく客観評価と改善サイクルの徹底**
現状把握→反復検証→合意形成→成果検証のサイクルにおいてデータを活用した客観評価を実施

04 | 刈谷市の現状と特性

本市のスマートシティは、以下に掲げるような**本市の産業構造、地理的特性、人口動態等に関する現状・特性を踏まえて**、分野間で連携して取り組むことが肝要である。



自動車産業中心の産業構造であるが、EVへの転換を始めとした自動車産業の100年に一度の大転換により、産業構造が変化する可能性がある。



中心市街地に企業が集積し、通勤や物流のための自動車移動が集中することによる**慢性的な交通渋滞が発生**し、市民の快適性に影響を与えている。



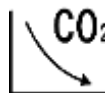
交流人口の増加、若者の転入促進、転出抑制のため、中心市街地の経済地理的条件やポテンシャルをいかして、にぎわいの創出が求められている。



子育て世帯の市外流出が起きており、将来にわたる人口規模の維持に向けて、子育て世代に魅力を訴求し、子ども達が未来に夢を持てる地域づくりをしていく必要がある。



スーパーサイエンススクールなど**理科教育に力を入れている**ことや、子どもに夢を与える**プロスポーツ・企業スポーツが盛ん**であるといった、未来の人材を育てる土壌がある。



2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「**ゼロカーボンシティ**」に取り組むことを表明。エネルギーの地産地消、産業振興と脱炭素化の両立を進めることが必要である。



現時点で全国平均に比べて高齢化率が高い状況ではないからこそ、**若い世代を含めた健康増進や行動変容に取り組む余地**がある。



道路や上下水道など充実したインフラを整備してきたが、老朽化が進む中で、**維持管理の効率化**が必要になっている。

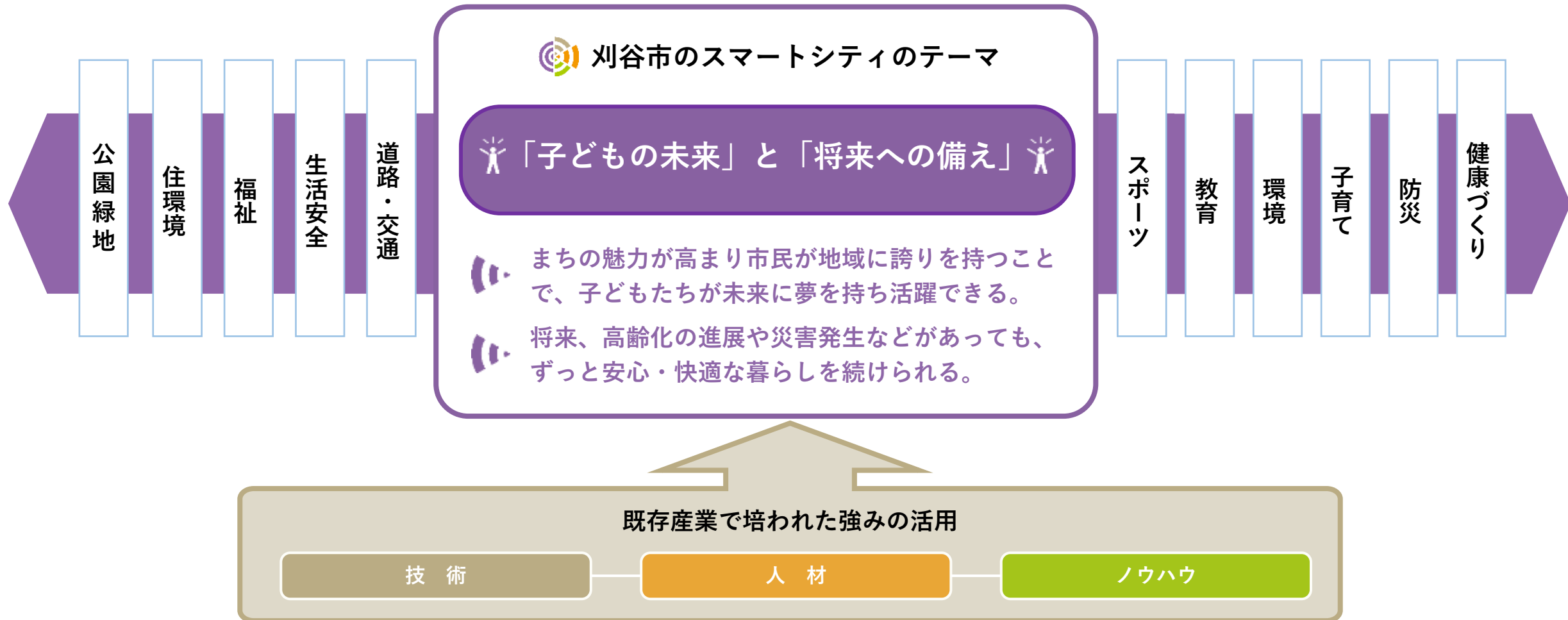


南海トラフ地震や多発する集中豪雨などの自然災害に備え、災害の経験が少ない個人や地域団体であっても迅速・的確に対処できるよう**防災・減災対策**にも取り組む必要がある。

05 | 刈谷市のスマートシティのテーマ

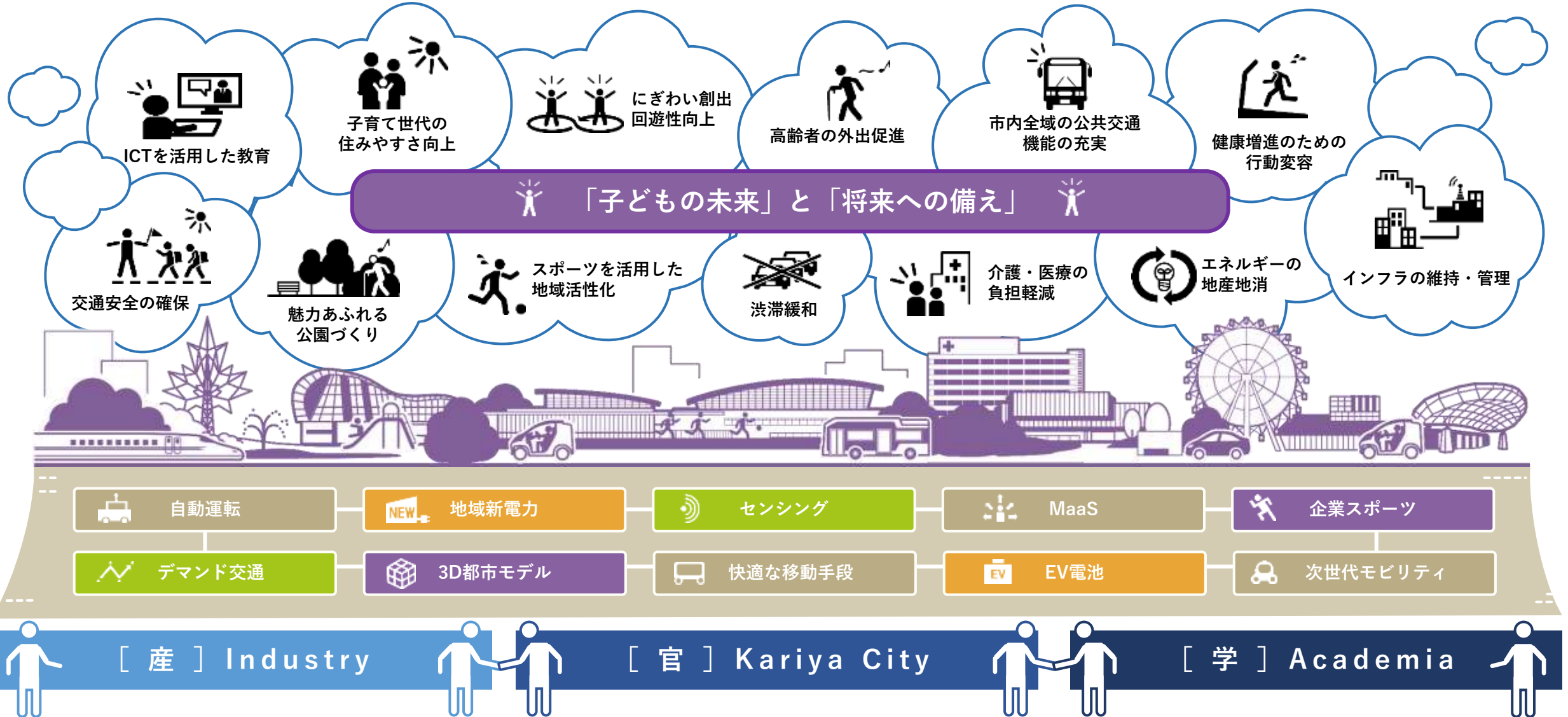
前述の本市の現状と特性を踏まえ、「子どもの未来」と「将来への備え」を本市のスマートシティのテーマとして、分野横断的に取り組む。

推進するに当たり、自動車産業が盛んな地域で培われた確固たる技術や人材・ノウハウを活用する。



06 | 取組イメージ

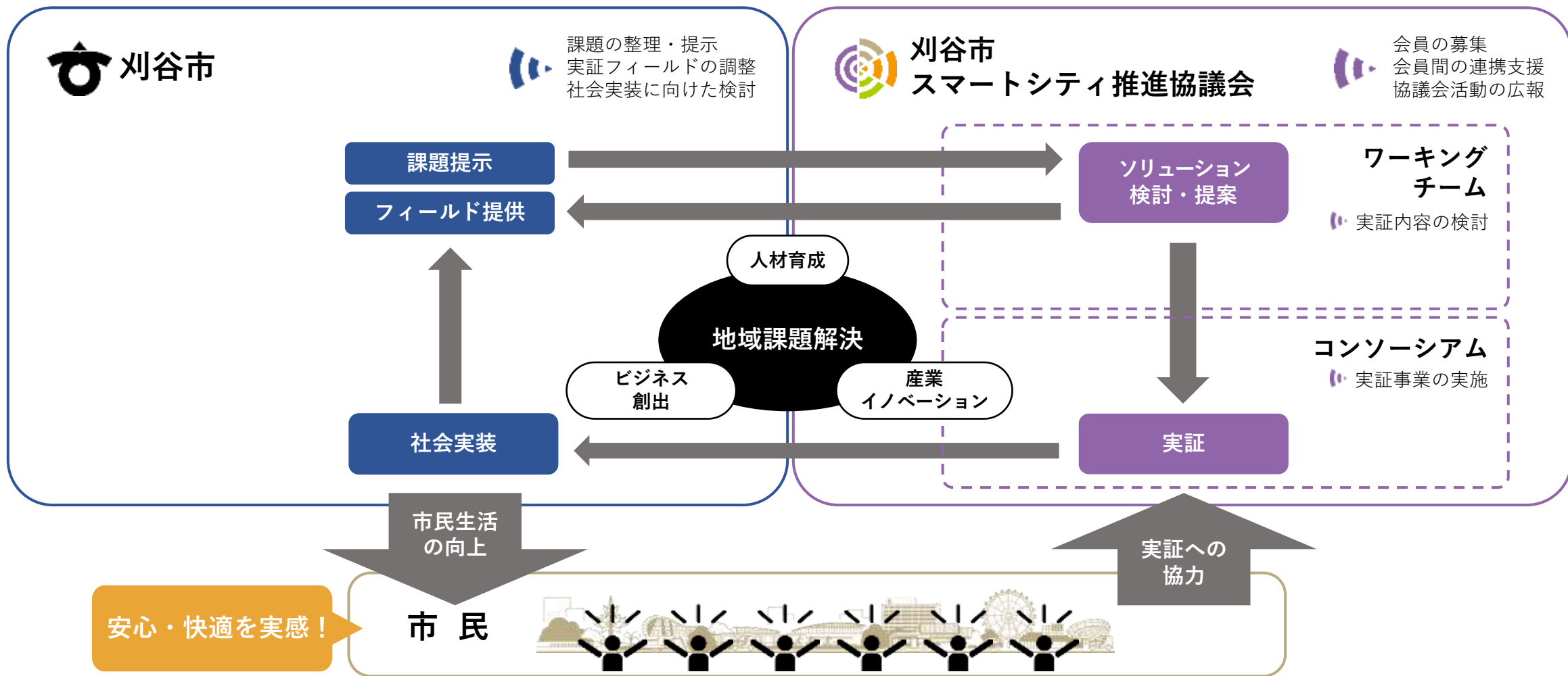
既存産業で培われた強みをいかして、刈谷スマートシティ研究会で出されたアイデアも含め、「子どもの未来」と「将来への備え」につながる取組を産学官共創で推進する。



07 | 推進体制／エコシステム

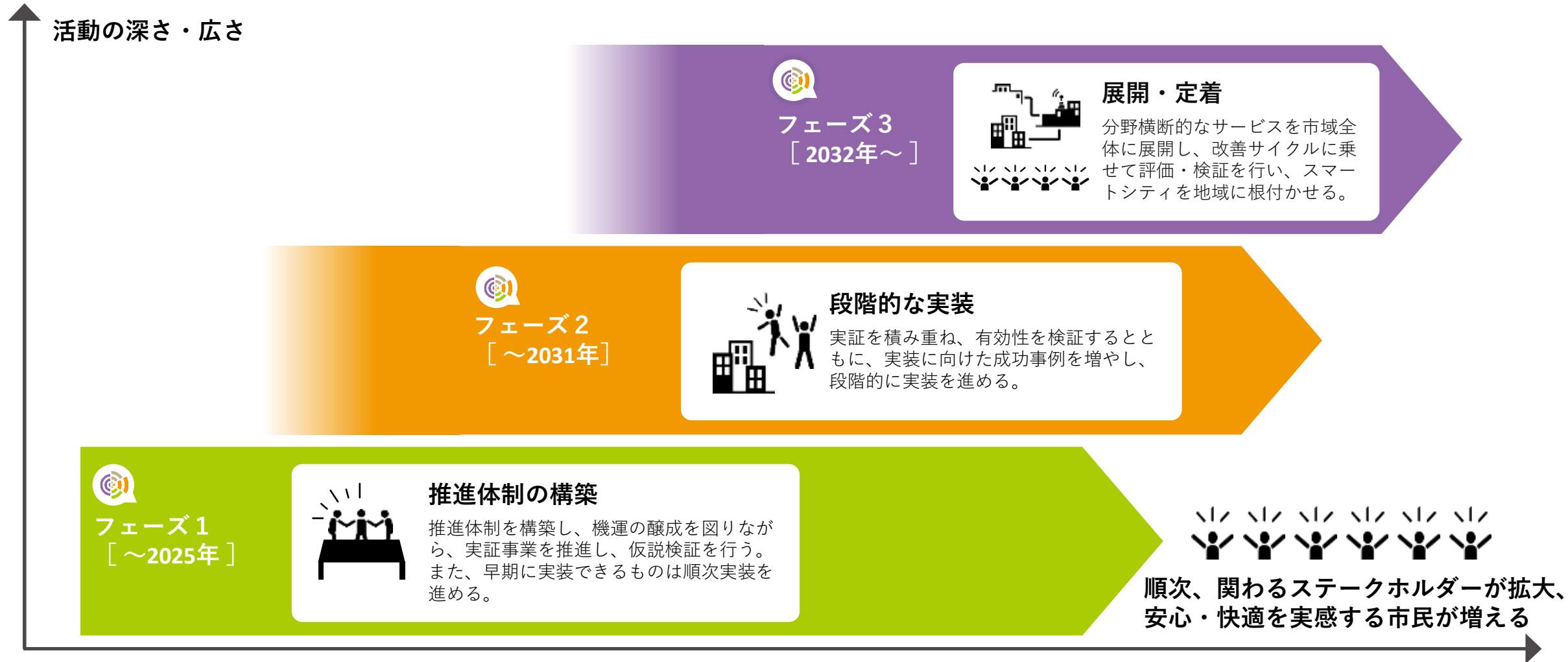
スマートシティの礎を築いた刈谷スマートシティ研究会を発展させた**刈谷市スマートシティ推進協議会**において、課題の提示～実証～社会実装につながるサイクルをまわすことにより、**Win-Winの関係が成立するエコシステムを産学官共創で構築する。**

エコシステムを通じて**地域課題解決に取り組む過程で、ビジネス創出、産業イノベーション、人材育成を促進し、地域の持続的発展につなげる。**



08 | 推進ロードマップ

実証事業に取り組み着実に成果を積み重ねていき、第8次刈谷市総合計画と歩調を合わせて、基本計画の終了年である2032年頃には、**分野横断的なサービスを実装し、スマートシティを地域に根付かせることを目標**とする。



P.3,4,8	ICT	Information & Communications Technologyの略で、情報通信技術のこと。
P.3,6	EV	Electric Vehicleの略で、電気自動車のこと。
P.3,8,9	刈谷スマートシティ研究会	刈谷市内を対象として、企業と連携したスマートシティ化を進めるための研究会。愛知県と刈谷市が共同で開催し、各企業が持つ技術を活用した実証実験プロジェクト等の検討を行った。 https://www.city.kariya.lg.jp/shisei/machizukuri/1010158/1011496/1010186.html
P.4	スマートシティリファレンスアーキテクチャー	スマートシティの推進を希望する地域が各々の地域の特性に合ったスマートシティの設計図をつくるために、国が定めた指針のこと。
P.4	スマートシティ・ガイドブック	国が全国のスマートシティの構築・運営を支援するためにとりまとめたガイドブックのこと。
P.4	デジタル田園都市国家構想	デジタル技術の活用により、地域の個性をいかしながら、地方の社会課題の解決、魅力向上を実現し、地方活性化を加速するために国が定めた構想のこと。
P.4	刈谷市DX 推進計画	デジタル技術やデータを活用して誰もが便利さを実感できる行政サービスへ変革するDXを推進するための基本的な方針として刈谷市が定めた計画のこと。
P.5	パーソナルデータ	個人情報に加え、健康情報や位置情報、行動履歴など個人と関係性が見出される広範囲の情報のこと。

P.8	MaaS	Mobility as a Serviceの略で、地域住民や旅行者一人一人の移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスのこと。
P.8	次世代モビリティ	自動運転車、超小型モビリティ、パーソナルモビリティなど既存の車両技術と先端技術を組み合わせることで、新たな移動手段を提供する車両のこと。
P.8	デマンド交通	利用者の事前予約に応じる形で、運行経路や運行スケジュールをそれに合わせて運行する地域公共交通のこと。
P.8	センシング	センサー（感知器）などを使用してさまざまな情報を計測・数値化する技術の総称で、温度や音量、明るさ、衝撃の強さといった要素を定量的データとして収集し、応用する技術全般のこと。
P.8	EV電池	電気自動車の車載用バッテリーのこと。
P.8	3D都市モデル	実世界（フィジカル空間）の都市を仮想的な世界（サイバー空間）に再現した3次元の地理空間データのこと。
P.8	地域新電力	主に地域で再生可能エネルギーを活用し、エネルギーの地産地消を目標にした小売電気事業者のこと。
P.9	刈谷市スマートシティ推進協議会	刈谷市が運営主体となり、民間企業等の会員とともに市の課題解決の検討、実証事業の企画、スマートシティに関する情報共有等を行うことを目的とした産学官連携組織のこと。 https://www.city.kariya.lg.jp/shisei/machizukuri/1010158/1011496/1011497.html

P.9	エコシステム	同じ目的を持った企業、行政、NPOなど多様な主体が集結して形成する、分業と協業による共存共栄の関係のこと。
P.9	産業イノベーション	これまでにない新たな産業を生み出したり産業の価値観や概念を変えたりするような大きな変革のこと。
P.9	ソリューション	問題や課題を解決する解決策のこと。
P.9	ワーキングチーム	刈谷市スマートシティ推進協議会で推進する事項のうち、特定の事柄に特化して検討を進めるチームのこと。
P.9	コンソーシアム	企業、行政、NPOなどからなり、ひとつの事業を遂行するために集まった団体、共通の目的に沿った活動を行う団体のこと。
P.10	ステークホルダー	企業、行政、NPOなどの利害と行動に直接・間接的な利害関係を有する者のこと。





刈谷スマートシティ ロゴマーク

街中に技術・サービス・情報が広がっていくイメージを表現しています。その中心には刈谷のイニシャル「K」が浮かびます。

刈谷市スマートシティ構想

発行 2023年3月発行

発行者 刈谷市

編集 企画財政部企画政策課

〒448-8501 刈谷市東陽町1丁目1番地

TEL：0566-95-0003

FAX：0566-23-1105

「子どもの未来」と「将来への備え」を

